

会議の名称	平成30年度 伊予市健康づくり・食育推進協議会
開催年月日	平成31年2月7日(木)
開始・終了時刻	午後2時00分から午後4時7分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	斉藤 功会長
副会長氏名	稲田 貫副会長
出席委員(者)氏名	斉藤 功委員、稲田 貫委員、山西佳恵委員、安渡偉典委員、本田恵津子委員、徳田 徹委員、(代理)紺田順一南山崎小学校校長、山田昌代委員、小畑昇子委員、吉澤三千久委員、平野孝志委員、向井早苗委員
欠席委員(者)氏名	佐々木典彦委員、川口和男委員
傍聴者氏名	傍聴者なし
事務局職員職氏名	武智茂記市民福祉部長、大西昌治健康増進課長、篠原知美健康増進課長補佐、武智ゆかり健康増進課長補佐、山内朋子健康増進課係長、松浦あずさ健康増進主任歯科衛生士、小倉直子健康増進課主査
説明者の職氏名	武智ゆかり健康増進課長補佐、山内朋子健康増進課係長、小倉直子健康増進課主査
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 自己紹介 3 会長挨拶 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各機関、団体等の取り組み報告及び健康づくり・食育に関する意見について (2) 伊予市の健康づくり・食育推進への取り組み状況について (3) 意見交換 5 その他 6 閉会
配布資料等	<ul style="list-style-type: none"> ○資料 1 健康づくり・食育関係の取組及び報告について ○資料 2 伊予市健康づくり・食育関係事業実施 ○資料 3 健康づくり計画の評価指標について

会議録

発言者	会議の概要
○事務局	<p>皆さん、お待たせいたしました。</p> <p>ただいまより平成30年度伊予市健康づくり・食育推進協議会を開催させていただきます。</p> <p>皆様には御多忙の中、御出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日、進行役を務めさせていただきます、健康増進課武智でございます。座らせていただいて進行をさせていただいたらと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>本協議会は、伊予市審議会等の委員の公募並びに会議及び会議録の公開に関する規則第14条の規定に基づきまして、会議の傍聴を認めております。事前に市ホームページでお知らせいたしましたが、傍聴希望はありませんでしたので、御報告をいたします。</p> <p>また、同規則に基づく会議録を作成するため、会議中の発言を録音させていただきますので、マイクでの御発言に御協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>本日の配布資料について確認させていただきます。</p> <p>会次第、委員名簿、配席図、資料3の修正版、伊予市養護部会からの資料、健康ポイント事業のチラシ、健康セミナーのチラシです。</p> <p>また、資料1、資料2、資料3につきましては、事前に郵送させていただきました。本日お持ちいただいておりますでしょうか。</p> <p>そのほか、策定時に配布いたしました伊予市健康づくり・食育推進計画につきましても、本日お持ちいただいておりますでしょうか。</p> <p>不足のものはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。</p> <p>本日の委員の皆様の出席につきましては、委員名簿のとおりでございます。</p> <p>本日は、30年度初めての協議会の開催でございます。4月の人事異動等により新しく委任させていただきました委員の方もいらっしゃいますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。お配りしております委員名簿の順に、簡単な自己紹介をお願いいたします。</p> <p>それでは、斉藤会長よりお願いいたします。</p>
○斉藤 功会長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>本協議会の会長を務めさせていただいております、大分大学の斉藤です。私、所属の異動があつて愛媛大学のほうから大分大学に10月に移りましたので御承知おきください。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
○稲田 貫委員	<p>伊予医師会の伊予市の代表、稲田内科の稲田と言います。よろしくお願いいたします。</p>

○山西佳恵委員	中予保健所の健康増進課課長の山西と申します。またよろしくお願ひします。
○安渡偉典委員	いよし健康づくりの会の会長をしております、中山町に住まいはありますが、安渡と申します。どうぞよろしくお願ひします。
○本田恵津子委員	伊予市食生活改善推進協議会の会長をしております、本田です。よろしくお願ひします。
○徳田 徹委員	伊予市青年農業者協議会から参りました、徳田徹と申します。砥部のほうの若い皆さんたちと一緒に農業をやっております。よろしくお願ひいたします。
○紺田順一（代理）委員	失礼します。本来なら伊予市校長会会長の篠崎が出席するところですが、本日所用で参加できません。代理で出席いたしました、南山崎小学校の紺田と申します。よろしくお願ひいたします。
○山田昌代委員	失礼いたします。伊予市小中学校養護教諭の代表で参りました、南山崎小学校の山田昌代と申します。よろしくお願ひいたします。
○小畑昇子委員	失礼します。伊予市栄養教諭会の代表で参りました、小畑と申します。郡中小学校在籍で伊予市学校給食センターと兼務しております。よろしくお願ひいたします。
○吉澤三千久委員	公募委員の吉澤と申します。よろしくお願ひいたします。
○平野孝志委員	公募委員の平野です。よろしくお願ひします。
○向井早苗委員	同じく、向井早苗と申します。栄養のほうを少しだけ勉強しております。よろしくお願ひいたします。
○事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>なお、本日商工会議所の川口様、伊予歯科医師会伊予支部代表佐々木様より欠席の御連絡をいただいております。また、先ほども御紹介いただきましたが、伊予市校長会代表の篠崎様より欠席の御連絡をいただき、代理といたしまして、南山崎小学校校長紺田様に御出席いただいております。</p> <p>続きまして、事務局を紹介いたします。</p> <p>失礼いたします。市民福祉部長の武智と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>失礼します。健康増進課の課長大西と申します。2年目です。本日はよろしくお願ひいたします。</p> <p>健康増進課武智でございます。進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>健康増進課の栄養士の山内と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>健康増進課の保健師の小倉と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>健康増進課篠原と申します。保健師です。よろしくお願ひします。</p> <p>健康増進課歯科衛生士の松浦と申します。よろしくお願ひいたしま</p>

<p>○齊藤 功会長</p>	<p>す。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、齊藤会長より、御挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>改めまして、本協議会の会長を務めます齊藤でございます。</p> <p>今日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>この協議会ですけれども、昨年度、手元にあります伊予市健康づくり・食育推進計画を完成しまして昨年度、私のほうが市長に答申ということで、これを持っていった経緯があります。今年度からは、この計画がどのように推移していくかというところを毎年一年ごとに見ていくと、5年、10年というところで、どのように伊予市の健康づくり・食育の活動が変わっていったら、ひいては、住民の方の健康増進にどれくらいつながっていったらいいのかを評価する場であろうかというふうにお願ひしております。</p> <p>今日は初めてお目にかかる方もいらっしゃるし、引き続きずっとかかわってらっしゃる方もおられますので、忌憚のない、各代表者が来られておりますので、御協力いただければと思ひます。</p> <p>私は、先ほども言いましたが、昨年10月、大学からの突然異動ということが起こってしまひまして、大分のほうに移ってしまひました。もともと出身が大分県ということもあって、お誘ひがあったものですから、大分ということになりますけれども、今日は朝、大分からこちらに来たんですけれども、大分と愛媛は近いようで非常に遠くて、フェリーで70分そこそこで三崎からここまで2時間くらいかかりますので、なかなか大変、道中4時間か5時間くらいかかるし、また大学の標準航路というのがあります、標準航路JRとフェリーを使って行けると言われると7～8時間かかり、前日から出ないと間に合わないというところがあるんですけれども、何か世の中は新幹線とか言っている割には、大分と愛媛は非常に交通の状況が待っています。ただ、非常に両県似たようなところもありますし、私も愛媛県12年おらせていただいて、伊予市のほうは健康づくりの会にかかわってきたという経緯もありますし、こう言ったら失礼かもしれませんが、よく知っている学識者の中では上位に入っておりますので、引き続きかかわらせていただければと思ひしております。今度は年度の途中だったので、また次年度以降は市のほうと協議しながら、できるだけかかわっていければいいと思ひしております。</p> <p>今日は、約2時間程度の会議でありますけれども、速やかに進行できるように御協力いただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、この後の議事進行につきましては、協議会条例第6条の規</p>
<p>○事務局</p>	<p>す。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、齊藤会長より、御挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>改めまして、本協議会の会長を務めます齊藤でございます。</p> <p>今日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>この協議会ですけれども、昨年度、手元にあります伊予市健康づくり・食育推進計画を完成しまして昨年度、私のほうが市長に答申ということで、これを持っていった経緯があります。今年度からは、この計画がどのように推移していくかというところを毎年一年ごとに見ていくと、5年、10年というところで、どのように伊予市の健康づくり・食育の活動が変わっていったら、ひいては、住民の方の健康増進にどれくらいつながっていったらいいのかを評価する場であろうかというふうにお願ひしております。</p> <p>今日は初めてお目にかかる方もいらっしゃるし、引き続きずっとかかわってらっしゃる方もおられますので、忌憚のない、各代表者が来られておりますので、御協力いただければと思ひます。</p> <p>私は、先ほども言いましたが、昨年10月、大学からの突然異動ということが起こってしまひまして、大分のほうに移ってしまひました。もともと出身が大分県ということもあって、お誘ひがあったものですから、大分ということになりますけれども、今日は朝、大分からこちらに来たんですけれども、大分と愛媛は近いようで非常に遠くて、フェリーで70分そこそこで三崎からここまで2時間くらいかかりますので、なかなか大変、道中4時間か5時間くらいかかるし、また大学の標準航路というのがあります、標準航路JRとフェリーを使って行けると言われると7～8時間かかり、前日から出ないと間に合わないというところがあるんですけれども、何か世の中は新幹線とか言っている割には、大分と愛媛は非常に交通の状況が待っています。ただ、非常に両県似たようなところもありますし、私も愛媛県12年おらせていただいて、伊予市のほうは健康づくりの会にかかわってきたという経緯もありますし、こう言ったら失礼かもしれませんが、よく知っている学識者の中では上位に入っておりますので、引き続きかかわらせていただければと思ひしております。今度は年度の途中だったので、また次年度以降は市のほうと協議しながら、できるだけかかわっていければいいと思ひしております。</p> <p>今日は、約2時間程度の会議でありますけれども、速やかに進行できるように御協力いただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、この後の議事進行につきましては、協議会条例第6条の規</p>

<p>○斉藤 功会長</p>	<p>定に基づき、斉藤会長に議長をお願いしたいと存じます。 斉藤会長、よろしく願いいたします。 それでは、これから議事のほうに進んでいきたいと思ひます。お手元の次第に沿って議事のほうは、進行していこうと思ひております。 それでは、協議事項に入ります。 それでは、4番の議事(1)各機関、団体等の取り組み報告及び健康づくり・食育に関する意見について、資料1の順に各委員の皆様より御報告をお願いしたいと思ひます。</p>
<p>○安渡偉典委員</p>	<p>資料1の最初のいよし健康づくりの会の会長様、お願いいたします。 それでは、各機関、団体等の取り組みに報告、いよし健康づくりの会の報告をさせていただきます。大きくは各種健康セミナーへの参加と実践、ウォーキング主催の参加、これは東温市へのウォーキングへの参加、1日研修及び親睦ツアーの開催、大きくは4つですが、一つ目の各種健康セミナーへの参加と実践ということで、大きなタイトルとして糖尿病にならないHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)を下げるセミナー、こういう大きなタイトルのもとで11月14日に郡中支部、南北山崎支部、それから包括支援センターさん含めて全体で19名で行っております。 11月30日、双海支部が開催されて44名が参加されています。 それから、健康と認知症についてというタイトルで、講話と運動としていただきまして、12月4日、中山支部で実施しまして、21名参加しております。 血液サラサラ健康教室という項目で、講話と調理をやっていただきまして、12月20日、南伊予支部で開催されました。11名の参加になっております。 2つ目のウォーキングの主催と参加ということで、平成30年度春のウォーキングは、4月27日に双海支部で双海シーサイド公園からふれあい公園までのウォーキングということで、84名の方が参加されています。 3つ目の東温市のウォーキングへの参加ということで、4月20日に伊予市から2名参加しています。 それから、秋のウォーキングもありまして、伊予市のほうから11月21日に参加1名でございます。 最後の1日研修及び親睦ツアーを年に1回開催しておりまして、これは中山支部の主催だったんですが、11月5日、85名参加しまして、マイントピア別子にみんなで行きまして、約片道4キロをウォーキングしてまいりました。</p>
<p>○斉藤 功会長</p>	<p>活動としては、以上でございます。 ありがとうございました。 引き続き、伊予市食生活改善推進協議会本田委員さん、よろしくお願</p>

<p>○本田恵津子委員</p>	<p>いたします。</p> <p>伊予市食生活改善推進協議会としましては、書いてあるとおりグループ伝達講習会、食生活、運動、休養、喫煙、睡眠、飲酒等の生活習慣改善のための講習会ということで、伊予市内15グループ、毎月150回、全部で延べ2,040人参加しております。</p> <p>親子の食育教室、これは夏休みに親子ふれあい健康教室、レクリエーションゲーム、健康のお話、調理実習などに28名参加していただきました。28名というのは14組親子ですので、そして、この日から始まったんですが、シニアカフェというので高齢者対象で、これは2つのグループでしたのですが、体力測定と今度伊予市にミカンまる体操というのでできて、それを教わったりお茶タイム、また簡単な料理実習などをしました。35人参加です。</p> <p>そして次に、世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業というので、これは若者世代向きなので高校生対象で先日、伊予農業高等学校で1年生の方の26名のところへ授業として取り組ませていただきました。3日間でいろいろ朝食とか塩分控えめとか野菜をたくさん取りましょうというお話、調理実習などを一緒にさせていただきました。</p> <p>次、おさかな料理教室、各地区で調理実習をして、お魚のさばき方とか、こちらでとれるお魚がどういうのがあるとかいう実習を10回、290人。</p> <p>次に、愛顔のE-I-Y-Oプロジェクト啓発運動というのが今、愛媛県で設置されていますが、その一環として朝食及び野菜メニューの調理実習ということで、25名でいたしました。</p>
<p>○齊藤 功会長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>○徳田 徹委員</p>	<p>次、伊予市青年農業者協議会徳田委員さんお願いします。</p> <p>伊予市青年農業者協議会では、毎年保育園の園児さんたちと食育活動をしております。ここ数年は三秋にあります、なかむら保育所の園児、保護者様たちと食育をさせていただいております。</p> <p>去年、一昨年とトウモロコシ、その前はイチゴを題材にした食育をしております。</p> <p>去年はトウモロコシですけれども、種まき、それから水やり、収穫等、実際になるべく自分たちの手で、会員の補助のもと、なるべくすべての作業を自分の手でやっていただいて、どれだけいつも当たり前のように食べている作物、食品がどれだけ苦労しているかを肌で感じてもらうことを目的にしております。</p> <p>一昨年なんかは会員が飼っているヤギを連れて行って、ヤギの乳搾り</p>

<p>○齊藤 功会長</p> <p>○紺田順一（代理） 委員</p>	<p>体験なんかはすごく楽しんでやっていただいて、過ごすことができいております。本当はトウモロコシの調理なんかもやってもらいたかったんですけども、時間の関係等でそこまではできなかつたんですが、土に触れたりしまして、まず肌で感じてもらうことをモットーにして、食育活動をしております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>引き続き、伊予市内校長会紺田委員さん、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、市内校長会の主な取り組みについて説明させていただきます。</p> <p>まず1番、健康づくり・食に関する指導の全体計画、年間指導計画につきましても、すべての小中学校で作成して指導のほうを行っております。</p> <p>その計画に基づいて2番、各教科等において実際指導のほうを行っております。特に関連の深い教科について、例えば家庭科とか、それから体育の保健領域、道徳、総合的な学習の時間、生活科そういった教科等で主に指導のほうを進めております。</p> <p>先日は、郡中小学校の子どもたちが家庭科の時間に考えた一食分の献立が、実際に学校給食として提供をされております。</p> <p>それから、朝の会、帰りの会、お昼の放送等を活用してのミニ指導のほうを実施しております。</p> <p>3番、学校、家庭、地域の連携につきましても、毎月発行します学校だよりや保健だより、給食だより、学校のホームページなどを活用して情報化し、啓発活動を行っております。学校のホームページには、毎日の給食の献立を写真で公開している学校もあります。</p> <p>それから、参観日での授業公開、学級での保護者との話し合いなどを行っております。また、学校保健委員会のほうも毎年実施をしております。</p> <p>4番の個別での健康相談ですが、食物アレルギー懇談の実施をしております。これは、毎月給食で対応している児童の保護者対象に行っております。アレルギーを起こす食品につきましては、状況証拠ということに対応をしております。</p> <p>2つ目の生活習慣病予防検診の事後指導ということで、この生活習慣病予防検診というのは、毎年小学校4年生の子を対象に実施をしております。そして、その後、指導が必要と判断された児童の保護者対象に、事後指導を行っております。</p> <p>また、例年追跡調査ということで5、6年生の対象児童についてもこの調査のほうは行っております。</p>
--	---

3番目、定期的な「こころの健康調べ」の実施と個別の相談活動の実施ということで、大体の学校が学期に1回、年3回は「こころの健康調べ」を行っております。そういったところから教師のほうが、子どもと個別に教育相談を行って、できるだけこころの心配事などを早期に解決するように対応をしております。

最後5番、その他としまして給食試食会の実施をしております。小学校の場合は、入学後に1年生の保護者を対象に実施している学校が多いと。

それから、2つ目の薬物乱用防止教室の実施も、これは中学校については、必ず毎年実施をしなければいけません。また、小学校においても高学年を対象に毎年実施をしている学校がほとんどです。特に講師につきましては、警察の生活安全課の職員を呼ぶところが多いようです。

それから、3つ目「ノーテレビ・ノーゲームにチャレンジ」の奨励ということで、家庭でゆっくりと親子で触れ合う時間を確保して、子どもたちの心の安定を図るようにしております。

そして最後、各学年に応じたスマホ教室の実施ということで、これにつきましても、最近インターネットやスマートフォンによる、いろいろな犯罪に巻き込まれるケースが増えております。小中学校においても、こういったインターネットやスマホの安全な利用については、毎年、外部講師を招いて実施をしております。以上のような取り組みで学校においては、健康づくり・食育の推進を行っております。

以上です。

ありがとうございました。

引き続き、栄養教諭会の小畑委員、お願いします。

失礼します。ほとんど校長会の報告と重複するところがありますので、そこところは割愛させていただきます。

給食センターのほうでは、各学校の校長先生方にも集まっておりますので、事業をどのあたりにするかということで、年度初めに計画を立てさせていただいているような現状です。

私のほうの報告は、5番の給食センターにおける食育事業のところを御報告させていただきます。

前回の会で、地産地消率のところでも市内産30%も難しいとお話も申し上げたところですが、この間、1月の地産地消の調査がありまして、市内産と含めて愛媛県産では、50%を超えるという現状で行っております。市内産に限ると、なかなか30%を超えるという達成率は、やっぱり品物が揃わないので難しい、努力は続けております。

それから、1月24日から30日、給食週間がありましたので、地元のものを使ったり郷土料理を取り入れたり、そういうふうな献立をしながら

○斉藤 功会長

○小畑昇子委員

ら、食文化の継承にも努めております。

来年度、1年生に上がる幼稚園の子どもたちは、順次、給食センターに見学に来ていただいて、そこで給食を体験してもらおうということも続けてやっております。

次のページになりますが、伊予國みそ汁の実施ということで、伊予市食育の日に合わせまして、伊予市の特産品が入った旬のみそ汁ということで、これも実施をしております。今年度は、夏休みに給食センターの建物の中にある機器を体験してもらおうということで、親子料理教室を開催いたしました。結構好評で、皆さん、また来年も来たいということを書いていただきました。

それから、今年度は食生活の調査が県全体で行うんですが、3年に1回の調査もしました。

それから、昨年に引き続き伊予市単体の調査ですが、小学校4年生と6年生、中学校2年生に対して、給食についてのアンケートの実施もしております。

今年度新しく始めたこととして、伊予市のホームページ上において、給食センターのウイクリーレポートの実施というのが始まりました。1週間の献立内容や調理員さんたちは、こんなふうに調理して里芋の皮をむいているんだよとか、給食センターには、こんな機器があるとか紹介できるようなページができましたので、もしよろしければそんなのも見ていただければと思います。

以上で終わります。

○斉藤 功会長

はい。ありがとうございます。

資料を出していただいたのは、ごめんなさい、もう一件ありますね。向井委員さんお願いします。

○向井早苗委員

向井と申します。栄養の歌の御紹介をさせていただいたらと思います。

御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、割と知らなかったようです。今回提出させていただきました。私も知りませんでした。

11月25日に松山子規記念博物館において栄養管理者指導者協議会学術集会というのが行われました。その際に、記念講演として栄養100年佐伯矩博士の記録と栄養情勢について、いろいろな先生の御紹介がありまして、この企画の講演世話人の先生は、大阪大学の国際医学工学情報センター栄養未来工学共同研究のほうの井上善文先生と言うんですが、この資料の中に栄養の歌が載ってまして、私が知りませんでしたので、これを是非、食育の一環として地域の子どもさん、皆さんに知らせていただける機会があればいいなと思って提出させていただきました。

CDが佐伯栄養専門学校のほうにありまして取り寄せたんですが、1

<p>○齊藤 功会長</p>	<p>番と2番は佐伯栄養学校の校歌だそうです。後がCDにも入っていないんですけれども、CDもちっちゃいミニマイクロCDとかいう昔の分で、アダプターがないと付けることができないんです。一応持ってはいますがこれとてもいい歌です。</p> <p>あの、是非何かの機会に利用していただければと思って提出させていただきました。よろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>貴重な資料を御紹介をいただきました。そしたら、どこまでが資料1と言いますか、もう一つ伊予市養護教諭会の山田委員さんから今日、当日資料を持ってきていただいているので、追加でお願いいたします。</p>
<p>○山田昌代委員</p>	<p>昨年行った調査のことについて、御紹介させていただきます。平成29年度に生活リズムの実態把握のために行ったアンケート結果と改善に向けての各校の取り組みについてです。</p> <p>愛媛県教育委員会では、県全体の実態調査の結果から望ましい睡眠教育別に課題が多いことがわかって、睡眠を軸とした子どもたちの睡眠の定着を図るために、平成28年2月に望ましい生活習慣の確立に向けた指導資料集というのが発行されました。それを受けまして伊予市の養護部会でも睡眠に目を向けて、28年度は取り組もうじゃないかなと思ひまして、子どもたちの実態把握のためにアンケートを実施することになりました。</p> <p>お手元の資料にその結果をお渡ししております。小学校は7月、中学校は6月から7月にかけて、市内小中学校全児童を対象に行いました。小学生は保護者に回答していただきました。アンケート結果についてお知らせしていきたいと思ひます。</p> <p>一つ目ですが、何時に起きていますかという質問です。平日は6時台が多く、休日は少し遅い6、7時に起きている児童生徒が多くなっています。</p> <p>次に、何時に寝ていますかという質問ですが、小学生では10時までが多く、中学生では12時以降まで起きている子が増えています。特に休日では22%ほどあります。休日は遅くまで起きている傾向にあると思ひれます。</p> <p>睡眠時間は、およそ何時間ですかという質問ですけれども、中学生では5時間以下の児童も多くなっています。</p> <p>次の質問ですけれども、学校から帰ってから、又は休日寝るまでの間に、次のことをどれくらいの時間していますかという質問をしました。</p> <p>(1)が家庭学習や学習塾での学習を含めた学習のことですが、全くしていないと答えた子どももいました。小学生は1時間まで中学生では2</p>

時間までが多くなっていますけれども、4時間以上というお子さんもいました。

読書ですが、しないと答えた小学生が40%、中学生では約60%ぐらい読書についてはありました。

これからは、余暇といいますか過ごし方ですけども、この3番がテレビ、ビデオ、DVD視聴について質問しました。この項目はほとんどの児童、生徒が観ています。休日は4時間以上と答えた子どもさんが10%余りありました。

次からは、ゲーム、インターネット、LINEやツイッターなどについての質問です。この3つにつきましては、しないと答えた子どもさんはありますが、休日になると4時間以上と答えた中学生が10%近くになります。それぞれに尋ねていますので、その辺は後でゆっくり見ていただけたらと思います。4時間以上ということは、次の日までということ、起きる時間まで影響しているのかと思われます。

次の質問を御覧ください。

朝の目覚めの状態はどうですかという質問です。平日起きられないと答えた子どもたちがおります。中学生では19%あります。前日の過ごし方が問題ではないかと思われます。

朝御飯は食べますかという質問ですけども、ほとんどの児童が70%から90%になりますけれども、食べると答えていますけれども、食べないと答えた子どももおります。小学生、それから中学生の平日、休日と学年が進むにつれて、食べてない児童生徒が多くなっている傾向が見られると思われます。

こちらのほうがアンケート結果です。

次が、改善に向けての主な各校での取り組みになります。

先ほど、校長会会長や給食センターからお話があったことと重なることも多いかと思えますけれども、まず始めに先ほど御紹介した県のほうから出された指導資料集を活用して、子どもたちに指導を行いました。小学校、中学校重なるところもありますので簡単にお伝えしたいと思います。

児童、生徒に向けては、集会や文化祭、校内放送、保健だより等を通してアンケート結果をお知らせするとともに、授業の中で取り上げるなどして実践を行った学校もあります。学級活動や朝の会、帰りの会の機会を捉えて健康な生活を送るためには、望ましい睡眠が大切であることを指導しました。保護者には、学校保健委員会の開催時に結果の報告を行ったり、結果をもとに改善策や睡眠の大切さ、規則正しく生活習慣を身につけるための工夫などについて、協議を行ったりした学校もあります。保健だよりを通して啓発の活動を行いました。

	<p>そのほか、自分の生活を振り返って実践するための手立てとして、生活リズム調べやチェックカードを活用して意欲化を図るなど、工夫した取り組みも行われています。現在も望ましい睡眠週間をつけるために、基本的習慣の生活の定着のために継続した取り組みを行っておるところでございます。</p> <p>なお、御紹介になるんですけども、今年度、郡中小学校におかれては、早寝、早起き、朝御飯の運動などの生活づくりに関する功績がたたえられて、優れた早寝、早起き、朝ごはん推進に係る文部科学大臣賞を受賞されたと聞いております。郡中小学校の養護の先生に聞いたので、間違いないかと思しますので、伊予市でもこういう盛んに取り組まれている学校もあるということをお紹介させていただいて、御報告にかえさせていただきます。</p> <p>以上です。</p>
○斉藤 功会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれの組織の活動内容を報告していただきました。また、御報告ができることがあれば、今それではですね、今ざっと続けて報告していただいたんですけども、それぞれのところで御意見、御質問等があれば、この場で伺っていきたいんですけども、何かそれぞれの活動を聞いて気になっているところ、聞いておきたいことあればお願いします。</p> <p>私のほうから先ほど郡中小学校の早寝、早起き、朝御飯の表彰されている、なんかこう他の小学校と違うことをやられたということが評価されたんでしょうか。誰に聞けばいいんでしょうか。</p>
○小畑昇子委員	<p>郡中小学校としては、毎年6月を健康教育参観日として、平成18年度からずっと続けて、そういうことを取り組んでいるということと、それから、養護教員の先生たちがノーテレビ、ノーゲームデーというのを子どもたちに呼びかけて、そういうチャレンジが3年目にして、ようやく増えてきたというようなところも主な活動内容として上げております。</p>
○斉藤 功会長	<p>具体的に今データで出していただけるといようなところが郡中小学校は、他の小学校に比べて少し睡眠時間が長いとか、それはこれからですかね。まあ、そういうのがあれば面白いかなと……。</p> <p>ほかに委員さんのほうで御意見とかないですか。</p>
○山西佳恵委員	<p>食生活推進改善協議会の本田委員さん、熱心な取り組みをされていて、学校に入りこんだり高齢者を対象にということで、あと若者というのも事業の中で取り組まれているということで、こちら辺は毎年ずっと継続的にやられているのですか、この取り組みっていうのは。</p>
○本田恵津子委員	<p>シニアカフェというのは今年度、県のほうから初めてきました。そしてしたのですが、高齢者向けで初めてです。</p> <p>それと、愛顔のE-IYOプロジェクトは初めてですが、世代別とい</p>

	<p>うのは毎年しているのは親子とか、世代別は今年は若者向けを伊予市がして、去年は高齢者向きの料理をつくるとか言えば、やわらかい食事をつくるとかというふうなのをして、その年によって世代別というのは取り組みが違うんです。去年は高齢者向け、今年はちょうど若者世代のをするということで、伊予農へ松前の食生活の人と一緒にあって、伊予農に入らせていただいたんです。授業をさせていただいたんです。</p> <p>また、来年はもしかしたら高齢者向けになるかもしれません。これは県のほうから来てるものですから</p>
○山西佳恵委員	<p>食生活改善推進協議会のほうで、今年はどこにいかうかなとかという計画を立てるというよりは、県のほうから一緒に、どこそこでやろうかなとか計画は。</p>
○本田恵津子委員	<p>県のほうからは、若者向けをしてくださいますとか高齢者向けをとか、若者向けというときには、一昨年には大学生を対象にというのがあったらしいですが、伊予市には大学がなく高校しかないの、それと去年から高校生向けに食生活で朝御飯を食べないとか、そういうのが高校生になると多いらしいので、高校生からしないといけない、歳を取って大変になるということで高校生を対象したんです。</p> <p>伊予市は、ちょうど伊予農があるから行ってもらったということ、伊予市と松前と一緒にコラボしてやらせていただきました。西予市は高校が4校あるらしいですね。そこらに入るのは割合入りやすいらしいですけど、伊予市は1校ですから、若者向け高校生向けと言うと、伊予農になるんです。去年は松前の食生活の人が、伊予農へ入ってしていただきました。</p>
○山西佳恵委員	<p>ありがとうございました。</p>
○斎藤 功会長	<p>ありがとうございました。</p>
○吉澤三千久委員	<p>ほかに何かございませんか。</p>
○小畑昇子委員	<p>栄養教諭会からの御報告の中で3年に1回、食生活実態調査が実施をされたということですが、結果はまだ出てないんですかね。</p>
○小畑昇子委員	<p>伊予支部の結果、砥部と松前と伊予市について集計は出ているんですが、公表については献立表の裏に給食だよりというのが載せていて、そこで速報みたいなのは出しています。県全体はもう少ししたらまとまるので、その数値は私たちの手元にも届くようになっています。</p>
○斎藤 功会長	<p>これは、学校栄養士協議会が3年に1回実施したものでですか。県のほうも共有しているんですか。栄養士会のデータわかりました。また、成果とかあれば、こういう場で報告していただければありがたいかなと思います。</p> <p>ほかに何かございませんか。</p> <p>気になるのは、子どもの食育というのは非常に気になるところがあり</p>

	<p>ますけれど、昨今、インターネットとかスマホとか非常にそういったところで、睡眠時間が障害されているとか、疾病と関係していれば睡眠障害に持っていくとうつ傾向とか、出現と関連があるんじゃないかと思えますけれども、それはちょっと高校生とかなかなか難しいですね。最近、ゲームが脳に悪いというような話もあって、隣の韓国は12時になったら切れるという対戦型のゲームが国の政策で打ち出されるようになっていて、スマホだけじゃなくて対戦型のゲームみたいなのが最近では、かなりはやってきて、僕はしたことがないのでどういうものかわからないですけれども、ネット上で敵と見方になって戦うみたいなですね、非常に問題視されているところがありますが、昔は単にLINEとか、そういうふうなユーチューブ、そういうとこだけでしたが、相手がいるとやめるのにやめにくくなっているという状況が生まれてきているところが、これはニュースからの情報ですけれども。</p> <p>ほかにないでしょうか。</p>
○徳田 徹委員	<p>先ほどの栄養の歌なんですけれども、今スマホで調べてみたらあるみたいなので、皆さんよろしかったら聞きませんか。</p>
○斎藤 功会長	<p>再生できるんですか。</p>
○徳田 徹委員	<p>できると思います。</p>
○斎藤 功会長	<p>マイクを近づけて、まあ全部は長いので1番か2番あたり……。 1番くらいで。 (音楽流す) どうもありがとうございました。</p>
○吉澤三千久委員	<p>初めて聞きました。NHKの大河でやっているような、ああいう時代の感じですね。すごいですね。戦時の智恵と力とが伝わってくるような、こういうのをきっかけにして、栄養とか身体づくりとか健康づくりに生かしていけると、きっかけになるかと思いました。言葉が難しいですかね。そういうのがあるかもしれません。</p> <p>ほかにありますか。</p>
○吉澤三千久委員	<p>たびたびすみません。アンケートの報告をしていただいた中で、今、社会福祉協議会の中で、子ども食堂かなんか取り組んでおられるようですけれども、この6番目の朝御飯を食べていますかという設問の中で、結構、朝御飯を食べている子どもさん多いようですけれども、子ども食堂の話を知ると、食事していない子どもさんが多いというような話を聞くんですが、その関係というのはどのように考えたらいいのでしょうか。</p>
○斎藤 功会長	<p>そうですね。この中で毎日食べるという人の中に子ども食堂を利用している人が入っているのかと。</p>
○山西佳恵委員	<p>子ども食堂を利用している対象者と、このアンケートを取った対象者</p>

	<p>が若干違いが見られるかと思うんですね。子ども食堂というのは誰でも利用できないですかね、お金をいくらか出して、子どもは無料で大人が有料、夜ですかね。</p>
○事務局	<p>いろいろな形態が</p>
○山西佳恵委員	<p>そうですね。アンケートはすべて対象にしたアンケートで、そこらあたりで多少差が出るんではと思うんですけど。</p>
○斉藤 功会長	<p>手元にどれくらいの人数が利用しているのかとか、わからないので、もし調べられるようであれば利用者の数とかを伊予市の子どもだけが利用者しているんですか。</p>
○吉澤三千久委員	<p>余り詳しくはわかりませんが、新しく取り組みたいというような民生委員さんの話で、そんなことをお伺いした。かなり食事してない子どもたちが多いようだというふうなお話でしたので、どんなかなと思ひまして。</p>
○斉藤 功会長	<p>ちょっとその辺、情報があればニュースで紹介されたのを聞いたことがあります、何か情報があればお願いします。また、意見交換がありますから、そのときに伝えていただければと思います。</p>
	<p>次に、協議事項（２）伊予市の健康づくり・食育推進への取り組み状況について、事務局よりよろしくお願いします。</p>
○事務局	<p>失礼します。お手元の資料２を御覧ください。</p> <p>本市におきまして、全庁を挙げて健康づくり・食育推進に取り組んでおります事業につきまして、「目指す目標項目」ごとに一覧表を作成いたしました。かなりのボリュームとなり、また類似した事業も見受けられますので、今後は事業の統一を含め、見直しを図っていきたく考えております。この中でも、健康増進課の取り組みについて、一部ではありますが、担当より説明いたします。</p> <p>取り組みの報告の前に伊予市健康づくり・食育推進計画の概要について、確認のために説明させていただきます。</p> <p>伊予市健康づくり・食育推進計画の冊子をお持ちだと思いますので、そちらの冊子の１ページ目を御参照ください。</p> <p>伊予市では、2007年に第１次健康づくり計画、2013年には第２次伊予市健康づくり計画を策定し、2017年度に中間評価を行いました。</p> <p>また、2011年には、第１次伊予市食育１・４（いちよん）推進計画を策定し、2017年度に最終評価を行いました。健康づくりと食育推進が密接した関係にあることから、今回は、これまでそれぞれ策定し、計画に基づく事業を推進してきました、第２次伊予市健康づくり計画（後期）と、第２次食育推進計画を一体化させ、計画を策定しました。</p> <p>冊子の２ページ目を御参照ください。</p> <p>伊予市は、「健康寿命の延伸と食育の推進を目標とし、子どもから高</p>

齢者までの、すべての市民が住み慣れた地域で、こころ豊かに健康で暮らせるよう、力を合わせ支えあいながら、共に健康づくり活動(健活)と食育に取り組み、市民みんなでつくる健康のまち」を目指すことを基本方針としています。

以上が、この計画の概要になります。

次に、健康づくり計画の指標の評価についてですが、今回は、算出可能な数値のみ資料3として事前に皆様に送らせていただきましたが、訂正が数箇所ありますので、資料自体の差し替えをします。

A4用紙1枚物で、右上に資料3(修正後)と記載してあります資料を御参照ください。

なお、算出方法を変更した指標がありますので、そちらの御確認を、まずお願いします。

資料3、裏面、(3)社会生活を営むために必要な機能の維持・向上、③高齢者の健康の指標、低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合についてですが、策定時と中間評価時は、長寿介護課で実施していた生活機能評価アンケートの結果から算出した割合を用いていましたが、2015年度以降、アンケートを実施していないため、最終評価に向けて65歳以上の特定健診及び後期高齢者健診を受診した高齢者のBMI20以下の割合を算出することとしました。

同じ方法で算出した2016年度は19.5%であり、2017年度は18.8%でしたので、この数値を見るだけだと、低栄養傾向の高齢者は減少していると言えます。

引き続き、中間評価時の数値と最新の数値を比較した現時点での報告を行いたいと思います。

資料3の表面にかえていただき、(2)生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、①がんの指標についてですが、2016年度のがん検診の受診率については、肺がん以外のがん検診において低下しています。

②循環器疾患の指標については、収縮期血圧の平均値は男女ともに、わずかではありますが、上昇しています。LDLコレステロールに関しては、男性がわずかに上昇し、女性は中間評価時よりさらに低下しています。

③糖尿病の指標については、治療継続者の割合は上昇し、血糖コントロール不良者の割合は減少しております。糖尿病有病者の割合は減少し、すべての指標において最終目標を達成した形となりますが、継続して変動を見ていく必要があります、取り組みにおいても継続していく必要があると考えます。

④肝疾患の指標については、B型肝炎・C型肝炎ともに受診率が減少しています。

⑤特定健診・特定保健指導については、受診率・保健指導実施率ともに上昇しています。メタボリックの該当者と予備軍については、ともに上昇しています。健診受診者が増えたことで、保健指導の対象者も増加したと考えます。2017年度の特定健診の受診率については、増加していますが、目標にはまだまだ届かない数値になっています。2015年度より継続して特定健診の未受診者勧奨事業を外部機関に委託し、受診勧奨を行っています。

また、健康増進課として、新たに今年度は受診者へのアンケート等を実施し、受診率を上げる方法を模索したり、特定健診対象者年齢に達した40歳の方のうち、特定健診受診者には粗品をプレゼントし、継続受診を促すとともに、実施率の向上を目指しました。

さらに、来年度は、特定健診対象者は特定健診を無料で受診できるようにしますので、それを追い風と捉え、無料化についても広く周知できるように、住民の集まる場所に出向き、勧奨していくことを検討しております。

保健指導実施率については増加しておりますが、今後も継続した取り組みが必要であると考えております。現在、特定保健指導だけでなく、重症化予防にも力を入れておりますので、取り組みを継続することで、いずれの割合も減少させることにつながると考えています。来年度以降も特定健診・がん検診ともに受診率を上げ、健診結果に応じ、必要な保健指導を実施し、翌年度の健診結果が改善できるよう取り組んでいきたいと考えます。

では、資料の裏面を御参照ください。

(3)社会生活を営むために必要な機能の維持・向上、②次世代の健康の指標である低出生体重児の割合、肥満傾向にある小学5年生の割合はすべて増加しています。

③高齢者の健康の指標については、要介護者認定割合、低栄養傾向の高齢者割合はともに減少しています。

(5)栄養・食事・身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善のところですが、④の飲酒、⑤の喫煙の指標については、妊婦中の飲酒は減少しており、喫煙は増加しています。

⑥歯・口腔の健康の指標については、3歳児の虫歯のない人の割合は増加し、12歳児の一人平均の虫歯数は増加しています。

以上が、中間評価時の数値と最新の数値を比較しての報告になりますが、この計画は、2023年度までの5年をかけて目指す目標を定め、そこに向かって取り組みを行っています。1年度ごとに出せない指標もありますし、1年度毎に数値を出すことが可能な指標もあります。中間評価

時の数値と今回算出した数値を比較する、点と点の見方というより、毎年度算出した数値の推移を見て、点と点をつなげて線で見ること、最終評価できるものと考えております。

また、今回の評価に用いている数値は、2016～2017年度の数値を算出しておりますので、今年度の取り組みが反映された数値ではありません。来年度以降に中間評価以降の取り組みが徐々に反映されていくと考えています。

次に、健康増進課で昨年度から今年度、特に力を入れて取り組んでいる糖尿病性腎症重症化予防プログラムについて報告したいと思います。

ここからはパワーポイントを使用して説明したいと思いますので、準備に少しお時間いただきます。

伊予市の糖尿病性腎症重症化予防プログラムの取り組みについて、報告させていただきます。

まず、平成29年度の糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実績について、御報告をしたいと思います。先にこのプログラムのことについて、少し説明をしておきます。

このプログラムは、糖尿病が重症化するリスクの高い方に適切な受診勧奨を行い、治療につなげるとともに 医療機関と市町が連携して保健指導を行うことで、糖尿病性腎症から人工透析への移行を防止することにより、健康寿命の延伸を図ることを目的としています。

平成29年3月に愛媛県が糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定したことを受け、伊予市でもこのプログラムに準じ、平成29年度は特定健診を受けた方のうち、HbA1cが6.5%以上の方の中で、医療機関にかかっていない方を対象に開始しました。このプログラムの対象者になる方を決める際にHbA1cという値に注目します。

HbA1cとは、時間で変化する血糖とは違い、過去の1～2カ月の食事などの生活習慣が反映された糖の値で 糖尿病の判定にも用いられます。

では、なぜHbA1cの値が6.5%以上の方を対象にするのかと言うと、HbA1c6.5%以上の方は、軽度の高血糖が続いている状態です。心筋梗塞や脳梗塞の発症率が高い状態です。7以上の方は、糖尿病の3大合併症である糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害のリスクが高まります。8以上になると合併症がさらに心配される状態になります。網膜症、腎症、神経症の発症率がさらに上がります。9.4以上になると昏睡状態に陥ってもおかしくない危険があります。ですので、予防という観点から6.5%以上の方を対象にプログラムを実施しているのです。

ここまでのことを踏まえて、平成29年度の実績を聞いてください。平成29年度の特定健診を受診された方は1,860人でした。この中で、

HbA1c6.5%以上の人は140人で、全体の7.5%でした。

プログラム対象者については、先ほども説明したように、特定健診を受診された方の中で、HbA1cが6.5%以上、かつ医療機関を受診していない方を対象としました。

HbA1c6.5%以上の140人の中でプログラム対象者、いわゆる医療機関未受診者は19人でした。プログラム対象者となった19人には、保健師・栄養士が受診勧奨と保健指導で家庭訪問を実施しました。その結果、13人、68%の方が医療機関を受診しました。

最終的に、プログラムに参加された方は6人でした。こちらは、保健指導のプログラムの流れについて示しています。愛媛県が策定したプログラムに基づき支援を行いました。約6カ月にわたって指導した後、最終評価を行い、次年度の健診受診を勧奨して終了となります。

プログラム参加者のHbA1cの変化ですが 保健指導前の平均値は9.5%、保健指導後の平均値は7.1%でしたので、変化はマイナス2.4%でした。

先ほどのスライドでも説明したように、HbA1c8.0%以上は、合併症を起こす可能性が高まりますので、9.5%という値は、非常に危険な値であることがわかつていますが、保健指導を行ったことで、7.1%まで下げることができ、合併症のリスクを低下させることができたと言えます。

次に、年度の途中ではありますが、平成30年度の取り組みについて報告します。

まず、プログラム対象者を受診をしたことがない方だけでなく、治療中断者にも広げました。治療中断者とは、過去に糖尿病で医療機関にかかっていましたが、治療を中断してしまった方のことです。

次に、医療機関、専門医との連携強化に努めています。昨年度、プログラムの説明に伊予市内の内科を中心に回らせていただきましたが、今年度も同様に、昨年度のプログラムの実績について報告し、協力をお願いしました。

さらに、健康増進課で行っている栄養相談や健康相談等を紹介しました。その結果、通院中の患者さんの栄養指導を医療機関から健康増進課にお願いされることになりました。

糖尿病専門医と健康増進課の職員との勉強会も昨年度から始まり継続できています。この勉強会は、伊予市だけでなく、松前町と砥部町にも声をかけ、伊予市、松前町、砥部町の保健師や栄養士が参加し、平成30年3月から3カ月から4カ月に1回、定期的な勉強会を継続して行うことができています。

保健師・栄養士の保健指導のスキルアップにも努めています。保健指

導の後、必ず評価し、改善し、住民に寄り添う、心に届く保健指導ができるよう努力しています。

そして、住民を中心とした連携の構築に努めています。今後は、住民を中心に、内科医だけでなく、眼科や歯科医師とも連携を進めてまいりたいと考えております。

来年度以降も引き続き、この糖尿病性腎症重症化予防プログラムを重点的に取り組んでいきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。

パワーポイントによる説明は、これで終わらせていただきます。

そのほか、来年度の新しい取り組みについて説明したいと思っております。配布しております資料2にも掲載していますが、お手元にあるこのチラシを御参照ください。

来年度より「ますますいーよ健康ポイント」事業を実施いたします。この事業は、市民の健康づくりを推進することを目的に、伊予市広域で参加者を募ることができるスマートフォンのアプリやポイントカードを用い、歩数に応じたポイントを付与し、貯まったポイントを500円の達成券に交換できるという流れになります。達成券は、本事業の協力店で使用することができます。

なお、アプリのみ3月1日から先行配信となり、利用開始可能となります。2月のいよし広報にも掲載しておりますし、チラシのほうは、伊予市役所、伊予市保健センター、双海保健センター、各地域事務所の窓口においております。また、伊予市のホームページにも掲載しておりますので、詳細はそちらを御確認いただければと思います。

以上、健康づくりに関するこれまでの取り組みと今後の取り組みについての報告を終わります。ありがとうございました。

続きまして、健康増進課の食育関係の事業について説明します。

資料2の3ページを御覧ください。

食育関係の事業では、健康増進課が市の他の課、保育所や幼稚園、企業、伊予農業高等学校などと連携しながら、事業を行っております。資料2の3ページ目の下から2行目にありますが、キッズキッチンは、2年に1回、市内の全保育所、幼稚園の年長児を対象に料理教室を行っております。

今年度から、子どものみの料理教室で親は参観するという、従来の内容を変更し、親子で一緒に調理をする料理教室にしました。親と子どもでいwashを手開きし、みそ汁、おにぎりなどをつくります。参加者アンケートでは、家でも子どもと一緒に料理をしたい、子どもの頑張る姿が見られてよかった、毎年開催してほしいなど、好印象の意見をいただいております。

キッズキッチンの下の行にあります、市内栄養士連絡会の項目を御覧ください。

市内栄養士連絡会は、来年度からの新規事業として計画しています。今年度中にも開催するよう予定しております。この会は、健康づくり・食育推進計画の推進のため定期的に連絡会を開催し、食育の推進、健康づくり、生活習慣病の予防、重症化予防に栄養士が連携して取り組むための協力体制をつくるための会となっております。会では、情報共有化、情報交換を行い、連携して行う事業などについて話し合う会とするように考えております。

次に、資料2の4ページをお開きください。

4ページの食育推進リーダー研修会は、食生活改善推進リーダー27名を対象に毎月開催しています。

伊予市は、削り節の生産が盛んで、全国一の生産量を誇ります。9月の研修会は、削り節やめんつゆの生産を行っている地元のヤマキ株式会社の協力を得て、減塩をテーマに講演会と調理実習を行いました。

初めに、市の保健師が、県や市で高血圧が多い現状を伝え、高血圧の原因や高血圧が続くとどうなるかを話し、参加者それぞれが塩分チェックシートを使用して、自分はどれくらい塩分をとっているかを確認しました。

続いて、ヤマキ株式会社の小澤事業スタッフ部長から、減塩だしつゆなどの減塩食品を使った塩分の減らし方など、どうやって塩分を減らしたらよいかの話がありました。

調理実習は、炊き込み御飯、大根とツナのマヨサラダ、なすの煮びたし、けんちん汁は、減塩調味料を使って薄味につくりました。塩分計を使用し、けんちん汁の塩分を計り、塩分量を確認しました。参加者からは、薄味だけどだしがきいていておいしい、野菜本来の味がよくわかると好評でした。

次に、食育推進リーダー研修会の下の方に記載しております、食生活改善推進協議会への活動支援の項目を御覧ください。

伊予市食生活改善推進協議会と連携を図りながら、子どもや高齢者を対象に健康づくりや食生活改善のために、いろいろな事業を行っています。

本田会長の報告にもありましたが、日本食生活協会委託事業の「世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業」は、伊予市食生活改善推進協議会と松前町保健栄養推進協議会と共同で、伊予農業高等学校生活科学科1年生を対象に教室を開催しました。授業の一環として3回にわたり、朝食の欠食解消と野菜摂取、減塩についての学習会と地元食材を使った献立の作成及び調理実習を実施しました。

同じく、4ページにあります親子ふれあい健康教室を御覧ください。

夏休みの後半の8月22日に開催しました。この教室は、子どもの心と身体の健康づくりを目的に、小学生の子どもと保護者を対象として、毎年夏休みに伊予市保健センターで実施しています。健康増進課が健康についての学習、社会教育課がレクリエーション、伊予市食生活改善推進協議会が調理実習をそれぞれ担当し、連携して事業を行っています。

小学生とその保護者の12組28人が参加しました。

午前8時から、親子で身体を使って楽しく遊びながらレクリエーションを行いました。その後、栄養士が栄養バランスのよい食事のとり方について話し、1日にとってよい砂糖の量について説明しました。ペットボトルのジュースに入っている砂糖を実際に皿に盛って、参加者に見せたところ、こんなに砂糖が入っているのかという驚きの声が上がりました。500ml全部飲むのではなく、コップに小分けにして飲むようにしようと、親子で学習ができました。

11時からは、4班のグループに分かれて調理実習をしました。食生活改善推進員の指導のもと、親子で協力しあって昼御飯をつくり、試食をしました。この教室では親子で楽しく1日過ごし、規則正しい食生活の重要性や健康づくりに関心を持つことができました。

同じく、4ページの生活習慣病予防のための塩分測定事業を御覧ください。

今年度10月から開始しました、この事業は塩分計を貸し出して、塩分計の借主が味噌汁などの汁物やスープの塩分を測定します。測定後、提出された塩分測定結果報告書を元に栄養士による助言や指導を実施しています。

塩分測定をした方からは、続けて減塩に取り組みたい、塩分の確認ができてよかったなどの感想が聞かれました。健康づくり・食育推進計画の目標の一つでもある減塩のため、塩分計の貸し出しによって、薄味にしている人を増やすため、今後も保健センターで塩分計の貸し出し数を増やしたいと思っております。

委員の皆様や団体や周りの方にも保健センターの塩分測定事業についてお知らせしていただき、借りたい方がいらっしゃいましたら、よろしく申し上げます。

また、現在、食育出前講座など栄養士が地域や団体の活動の場へ出向き事業を実施しておりますが、今後も皆様と連携を図りながら、食育推進が図られますよう、よろしくお願ひいたします。一例としましては、減塩をはじめとした生活習慣病予防の献立の普及や高齢者を対象とした栄養の摂取の仕方などの出前講座を考えております。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<p>○斉藤 功会長</p>	<p>以上で食育関係事業の説明を終わります。 ただいま健康づくりについて報告がありましたが、何か御意見か御質問等がありましたらお願いします。特にないでしょうか。 指標のところは矢印……。 矢印というのは上を向いていたら指標によって下向きでもいいところと上向きでもいいところもありますので、低出生体重児が増えているというんですかね、以外だったんですけども妊娠中の喫煙も増えているというか、これは調査の年度によって少しばらつきがあるのかも知れないですが、この辺課題としてはどう捉えているんですか、低出生児の増加については。</p>
<p>○事務局</p>	<p>極小未熟児と言って、すごく小さい子ではなくて2,500グラム未満というところのラインで拾っている数字でありますので、かなり小さい方がいたというわけではなく少し、ホントに2,000から2,500グラム未満のお子さんが低出生体重児として、ちょっと上がってきているのかなといった印象です。 確かに、妊娠中の喫煙が増えているというか、やめられていない方が多いというか、妊娠がわかってもタバコを吸うのがやめられないという方が数名いられたという印象でした。 あと、冊子の34ページにあります、妊娠前からのお母さんのほうがスタイルを気にされる、それでなかなか必要な栄養が取れていない方もいるのではと思っておりますので、こういったところも保健センターのほうで地区担当制で保健師が各地区の妊婦さんに当たっており、栄養士もおりますので、一緒に御自宅のほうに訪問に行きまして栄養指導を行うこともできますので、またこういったところも続けていって低出生のお子さんが少なくなるように、こちらのほうも努めていけたらと思います。</p>
<p>○斉藤 功会長 ○事務局 ○山西佳恵委員</p>	<p>1年間の出生数というのは、伊予市では何人ですか。 220～30人くらいです。 すみません。先ほど妊婦さんでやせすぎの話が出たんですけども、大体今出産の高齢化とか若年化というか一般的にです、問題になっていると思うんですが、伊予市さんなんかは、出産のお母さんの年齢なんかはどうなんでしょうか。傾向としては……。</p>
<p>○事務局</p>	<p>失礼します。昨年度から伊予市のほうでは、母子包括支援センターということで、他の市町より先駆けて支援センターを立ち上げまして、保健センターのほうで母子手帳を交付時に、お母さんのほうの面接を充実させて、先ほどの喫煙についても既にやめられない方については、直接指導なんかも行ってありますし、チェックリストを用いまして、高齢の妊婦さんだけでなく、それ以外の未婚、未入籍の方であったり若年の妊娠の方とかに、妊娠中にフォローを充実させていっているところです。</p>

	<p>高齢の妊婦に関しても、やはり増加傾向にあるように思われますので、健康に出産できるようにフォローを充実させてまいりたいと思っております。</p>
○斉藤 功会長	<p>母子健康手帳の配付のときにチェックリストを使ったりとか、指導をする機会を設けているんですね。</p>
	<p>あと何かございませんかね。</p>
○山西佳恵委員	<p>質問なのですが、指標のところ、がんの受診率が全体に何となく下がっているような傾向が……。</p>
	<p>これ、なんか影響というかあるんでしょうか。</p>
○事務局	<p>子宮がん、乳がんに関しては、2年に1回という隔年の受診が、平成26年度から実施しておりますので、どうしても多い年度とそうでもない年度と分かれてしまうところがあるんですけども、確かに全体的に数値を追っていますと、減少傾向にあるというふうに捉えております。一つとしては、市のほうのがん検診でひっかかってしまった場合には、病院のほうを受診されて、そのままフォローを病院のほうでされる方もいらっしゃるんで、そういった影響もあるのではと考えております。</p>
○斉藤 功会長	<p>回数とかそういうのは特に変わってないですか、がん検診を受ける機会とかむしろ増えてるとか。</p>
○事務局	<p>回数、日数に関しては変わっておりませんし、肺がんのほうですと、CTとCRレントゲンという形で日にちを挙げておりますので、こちらの集団健診の日数を減らしたりだとか項目を減らしたということはありません。</p>
○斉藤 功会長	<p>医療とつながっている機関ということですね。</p>
	<p>ほかに何かお気づき点ございませんか。</p>
○稲田 貫委員	<p>C型肝炎のことについて、ここ数年ウイルスを直接やっつけるいい薬ができて人数自体、ここは受診率、C型肝炎に新しくかかる人が少ないんで、受診率はだんだん受診者も減ると思うんですが、そのあたりの傾向とかはどうですか。2、3年前と比べて肝炎そのものが減ってきている中で受診率も減ってきてるかどうか。</p>
○事務局	<p>すみません。検査を受ける方も確かに減ってきています。その中で要精率というのは、そんなに大きく変わってきてないという印象を受けていますが、毎年度数名は要精という形で上がってきているということが続いております。</p>
○稲田 貫委員	<p>受診率のほうだんだん多分、これから5年、10年とその傾向がこの1年という間に出てきているかとちょっと思ったんですが。</p>
	<p>付け加えることはありますか。</p>
○斉藤 功会長	<p>一応、評価の年がそんなに実施が始まってまだ1年、もう少し長い目で見ていかないと指標の変化が出てこないと思いますので、ここから少</p>

<p>○事務局</p>	<p>しずつ確認というか毎年見ていければいいかなと思います。</p> <p>健診の受診率を上げるのは、どこでも苦勞しているので伊予市さんもすごく大変だろうと思いますが、60%というのが最終目標で大変難しいと思うんですけど、頑張っていたらと思います。</p> <p>先ほど、少しアンケートとか受診勧奨の仕方を変えたり外部の機関にそういう受診勧奨の委託をすとか、これは31年度から実施しようとしてるんですか、30年度……。</p> <p>外部の委託は、平成27年度から勧奨事業をお願いしていて、来年度いろいろ分析をしていただいて層を決めてそちらのほうに、はがきだったり電話のほうで勧奨をしていただいたりしています。今年度、平成30年度に関しましても、委託している先が新たなところをお願いするようになりましたので、はがきの勧奨を年間3回やっていただきました。</p>
<p>○斉藤 功会長 ○事務局</p>	<p>まだ、その成果はこれからですかね。</p> <p>今のところ、数だけは少し拾ってはみましたが、1月の終わりに2日間ほど健診があり、これで終了になりましたが、前年度よりは受診者数は多くなっている見込みのようです。</p>
<p>○斉藤 功会長</p>	<p>よかったですね。</p> <p>さっき重症化予防のところがあって、重症化予防対象者は特定健診を受けた人になるので、特定健診の受診率が上がらないと重症化予防のほうも増えない、未受診のところはどうアプローチするかを難しいところがあります。未受診だから血糖値が高いか低いかわからないかもしれませんが、県のデータで分析してみると、健診受けてない人のほうが透析の導入率のほうが高かったりして、どのようにして見つけていくのかと、受けてない人の血糖値をどうやって測っていくのか難しいところがありますが、受診率を上げるしかないなと思うんですが、医療機関と連携するのも一つかもしれません。いい成果が出ていると思いますので、引き続き応援していきたいなと思います。</p> <p>なんかお気づきの点とかございますか。</p> <p>そうしましたら、協議事項(2)はここまでにしまして、(3)意見交換というところになります。これまでのところを踏まえて、先ほどの各委員さんからの御報告の内容も含めて、意見交換できればと思っております。何か委員の皆様から御意見がございましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>○山西佳恵委員</p>	<p>すみません。愛媛県ですけど、県のほうでは愛媛の健康づくり21というようなことで県民健康づくり計画、来年度、それと計画が25年度から35年度の間の計画ということで立てているところですが、今年度がちょうど中間評価の年にありまして、植田も委員になって評価にも入って評価をしているところです。今年度中には評価をして、来年度早々には報</p>

	<p>告しようという形でできるかと思います。</p> <p>今日、伊予市さんのほうから現状の中でいろいろ問題が出てきていましたが、私も全部できてないですが評価を横にちらちら見てみますと、栄養バランスに配慮する食生活が送れてないとか適正体重の割合のところが目標に進めてないとか運動習慣の割合だとか、睡眠を十分に取れていない、そこらあたりの評価がよくないと言うか、そういう結果が少しずつ県の計画の評価にも現れてきています。</p> <p>健康寿命ってよくみなさん言われると思うんですが、全国との比較で見るとびっくりしたのが、男性がワースト3とか全国で非常に健康寿命が悪いんですね。格差、全国に比べてやっぱり男性で1.88倍、女性はよかったのに、今回悪い結果が出てたりとか、健康寿命ですから平均寿命の差もあるんですけど、元気で長生きできる、それはやっぱり子どもの頃からのいろいろな生活習慣だったり特技だったり影響しますし、皆さんの報告を聞いて中間評価まだまだ仕上がってないですが、そこらあたりの問題が見えているところではないかということところです。詳しいことは、また4月以降にお伝えできると思うんですが、またそういった県では報告申し上げたいと思います。</p>
○斉藤 功会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>健康寿命の話が出ましたが、あれは市町ごとに出ているんですかね、県レベルで、全国と県の比較みたいなのでは。</p>
○山西佳恵委員	<p>男性が下のほうで全国で男性が72.14ですが、ちょっと低い71.33で女性の場合だったら前はよかったんですが、全国が74.79ですけど愛媛県は74.59というふうに全国レベルでも低いと、男性のほうはかなりワースト3ぐらいに下から3番目当たり、一番悪いのが熊本、秋田、愛媛と、女性もちょっと落ちていたので、もっともっと若い頃からの取り組みが必要かなと思いました。</p>
○斉藤 功会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかに何か今日のところで御意見あればお願いします。</p>
○吉澤三千久委員	<p>すみません。病気になってしまうと医療機関にかかって治していこうということに目がいってしまう気がするんですが、ぼくも専門家でないので、どの程度効果があるかわかりませんが、食育というような小さい頃からの生活習慣が非常に大切かというような指摘が、県のほうからあったと思うんですが、小さいときからどういう食習慣、あるいは生活していくかということが、病気を防いでいくことに非常に大きくかかわってくるのではないかなあというふうには、何となく感じるんですけども、そこら辺、専門のお話をお伺いできれば非常にいいかなと思うんですが。</p>
○斉藤 功会長	<p>稲田先生、もし三つ子の魂百までではないですけども、子どものと</p>

<p>○稲田 貫委員</p>	<p>きの食育が大人の健康状態に影響するのかと何か。</p> <p>僕も食育専門ではないんですけども、ましてや一般的には、僕の小さいときより食事はよくなってきていますけど、昔、脂質型なんかが余り過ぎた状態で、昔と今との環境こそが変わってきている一番の問題は、過剰摂取が問題ではないかなと、小学生においてもかなり肥満児が多いし、昔は大体がりがりやせていたのに、僕ら世代は戦後直後の生まれですから、そういうイメージが強い、今の小学生から肥満が隠れている、やっぱり過剰摂取をやめるとか、いろんなものを満遍なく食べるとか、そういうことで全体的に栄養状態を保っていくと思いますけど。</p>
<p>○斉藤 功会長</p>	<p>なかなかデータの的には見たことがなくて、子どもの食育が成人合併にどう影響してくるか、余り聞いたことがなくて探してみればあるのかもかもしれない、やっぱり教育というところは大事だと思いますし、最近環境、家庭内の環境のことも言われることが多いので、いくら子どもたちが頑張っても、お父さんお母さんが朝御飯つくれなかつたり簡単に済ませていけば、子どももそれは学校とかもですね、地域のサポートとかも必要ってことですかね。教育ってところも大事っていうのは、今非常に強く言われているところです。あとは食事に関する教育は食育ですから、養護教諭、栄養教諭スペシャリストの先生方に口をすっぱくするほど言っていくしかないなと思っています。</p> <p>特に、たばこなんかは20歳とか、要は10代に吸ってなければ、ほとんどたばこを吸い始める人はいないですね。吸わずにいくので20歳過ぎてから18、19、20でたばこを吸い始めるかどうかで、その後の喫煙がつながっていくので、悪い物はできるだけ早く絶つというか、教育も中学生、高校生でするよりは、恐らく小学生低学年もしくはもっと下でもいいかもしれません。若いとき幼いときにしたほうが効果があるというふうに思っております。</p> <p>現場も非常に大変かと思いますが、そこは頑張っていたきたいなと思います。</p> <p>あとはないですか。</p> <p>時間も大分過ぎてきて終わる時間に近づいてきましたので、しめたいかなと思います。何か付け加えて発言したい委員さん、もしいらっしゃいましたらお願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>それではないようですので、以上を持ちまして進行のほうを終わらせていただきたいと思います。御協力ありがとうございます。</p>
<p>○事務局</p>	<p>斉藤会長ありがとうございました。</p> <p>最後に、その他になりますが、事務局より今後の予定及びお知らせをいたします。</p> <p>今後の予定につきまして御説明をいたします。計画の期間を2018年か</p>

ら2023年度の6年間としておりますので、最終年度の2023年度を除き2022年度までが年1回、この時期の開催を予定しております。

最終年度の2023年度につきましては、新しい計画の策定に向けて協議会の開催が必要と思っておりますので、開催回数が増える予定でございます。委員の皆様には、何とぞよろしくお願いいたします。

失礼します。事務局より2点御報告、お知らせをしたいと思います。

まず、「伊予市自殺対策計画」の概要について報告させていただきます。お手持ちの伊予市健康づくり食育推進計画の30ページをお開きください。

第3章、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上の取組みとして「こころの健康～SOSに早めに気づこう」の目標を掲げております。その目標に対しての今後の取組みとしては、32ページに掲載しております。一番下の枠の行政の取組みのところの3番目に記載しております「伊予市自殺対策計画」を今年度中に策定する予定でございます。

計画策定の経過についてですが、自殺対策基本法に基づき、すべての都道府県及び市町村で「自殺対策計画」の策定が義務付けられました。

伊予市においても、市の総合計画や健康づくり・食育推進計画などとの整合性を図りながら3回の審議会を開催しまして、来年度からの2023年度までの5カ年の計画案がまとまりました。現在、計画案についてホームページに掲載し、市民の皆様からの意見を募集しているところでございます。委員の皆様にもお目通しいただければと思います。

また、来年度からは、自殺対策計画の推進を図るため、庁内全課による委員会と関係者や関係団体による協議会を開催する予定でございます。本協議会の委員さんの中にも、自殺対策の審議会で重ねてお世話になった委員さんもいらっしゃいます。引き続き、自殺対策推進のほうでも御協力や御意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

引き続き、「2018年度伊予市健康セミナー」について、紹介させていただきます。配布ちらしを御覧ください。

2月のいよし広報にも掲載しておりますが、3月9日（土）にこちらの会場におきましてセミナーを開催いたします。

健康増進課では、一般市民向けに健康に関する有益な情報を発信する機会として、年1回セミナーを開催しております。昨年は「イライラ・怒りとの上手な付き合い方（アンガーマネジメント）」というテーマで開催いたしました。今年度につきましては、「子どものSOSに気づくために私たちができること」というテーマで、子どもこころセンター長の堀内先生をお迎えし、御講演いただく予定です。

いじめや虐待等の問題は、マスコミでも大きく取り上げられ、社会問

題となっております。子どもを持つ親だけでなく、家庭や学校、地域で子どもが安心して生活するために何ができるかを考える機会になればと思っております。

市内の小中学校の保護者には、学校を通じてこのチラシを配布する予定でございます。委員の皆様も都合がよろしければ、是非御参加いただければと思います。

以上、事務局からのお知らせを終わります。

健康増進課の大西です。

健康づくり・食育推進については、まずはより多くの方に関心を持っていただき、実行に移し、日常生活に結び付けていく必要があります、簡単なようで実は非常に難しいことだと実感しているところです。

事務局から、今後の本会のあり方について提案させていただければと思います。

本協議会の目的には、本計画の策定に関するもののほか、施策の推進に関するものが含まれています。今後、計画終了の2023（H35）年度までの5年間、本会を継続し、計画の検証と見直し等について協議を続けてまいりたいと存じますが、本計画には大きく60の指標があり、これら目標値の達成に向けて、各委員の皆さんが現在実施している事業の一層の充実と、ここに御参会の皆様のご協力をいただきながら、新たな取り組みについての検討と実行が必要と考えております。

具体的に申し上げますと、先ほど、事務局から報告しました「健康ポイント事業」等々につきましては、今後、各団体の協力もいただきたいと思っておりますし、各委員さんが現在実施している取り組みで他の委員さんに協力をいただきたいものや検討しているものがありましたら、まずは事務局へ報告をいただければと思います。

事務局から会長や各委員さんにお伝えし、協議会の情報共有化をもって、より効果を求めることができれば、イコール、本計画の推進につながるものと考えております。

また、状況に応じて、こうしたネットワークを区長会や伊予農業高等学校など他の機関や団体にも広げていくことも検討しております。これにつきましては、来年度、事務局で検討を行いまして、会長や各委員の御意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

また、先ほどの報告にありました「市内栄養士会」のように、内容に応じて分科会のようなものを設置するのも有効な方法と考えております。

最後に、これまで説明をした内容については、随時、文書等により情報の提供を行いたいと考えております。無理のない範囲で協力をいただければと思います。

以上、今後の協議会のあり方について、るる申し上げましたが、これらの取り組みが進むことで、10年後、20年後、またその先も、ここ伊予市が「子どもから高齢者までの全ての市民が住み慣れた地域で健康で暮らせることができるまち」となるよう努めてまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

それでは、長時間にわたっての御審議ありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度いよし健康づくり食育推進協議会を閉会いたします。お気をつけてお帰りください。

午後4時7分 閉会